

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1292200027
法人名	医療法人社団千葉医心会
事業所名	グループホーム 増尾
訪問調査日	平成 20年 2月 26日
評価確定日	平成 20年 3月 25日
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1292200027		
法人名	医療法人社団千葉医心会		
事業所名	グループホーム 増尾		
所在地 (電話番号)	千葉県柏市増尾 749 (電話) 04-7170-5033		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成20年2月26日	評価確定日	3月25日

【情報提供票より】(20年 1月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成19年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤6人 非常勤12人 常勤換算	11.01人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2階建て	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	0 円	昼食 0 円
	夕食	0 円	おやつ 0 円
	1日あたり1,000円		

(4) 利用者の概要(1月31日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	5名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.8歳	最低	66歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉ニュータウンクリニック、柏光陽病院、大津が丘歯科
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開業1年目という新しいグループホームですが、運営グループの明確な理念と方針のもとで、各職員が堅実に業務を遂行しております。ホームの特徴的な作業としては、利用者と家族・スタッフが一緒になった「合同もちつき会」および「クリスマス会」等のほかに、他のグループホームの方々との「合同外出」があります。さらに、ホーム内での各個人別に「月間目標」(例・廊下の歩行訓練)をたて、それを毎月評価し合うといった本人の動機づけを大事にした運営を行っていることが特筆されます。今後「運営推進会議」等での討議を基にして運営の益々のレベルアップが期待されます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての外部評価です。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ユニット別に各施設長が中心となり、各々自己評価票をまとめています。平成19年3月からの運営ということで、日の浅さもありますが、各ユニット共この「自己評価票」をベースとして帳票整備等を軌道にのせていく考えです。(管理者面談等より)
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成20年1月23日に第一回の推進会議を実施しております。法人理事長、民生委員、市役所職員他のメンバー(自治会長のみ欠席)が「地域密着」を具体的に進めていく方針で意見交換しております。敬老会への参加、バザーの開催、盆踊りへの参加等の企画が出されており、今後の具体的な展開が期待されます。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 通常は面会時や電話等のやりとりで情報交換を行い、ケースバイケースで運営に反映しておりますが、今回の「利用者アンケート」(とりわけ自由記述)等での家族の具体的な要望、意見等も重視して、今後の家族からの意見の幅を広げていく考えです。(管理者面談等より。)
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との連携は徐々に実施されつつあります。平成19年は、ヴァイラ祭(8月5日)、盆踊り(8月10日)等の行事への参加がなされ、今後は、地域の「老人会」や「バザー」への参加が検討されております。なお、ホーム内での各種行事に地域の方々を招待する企画は今後の課題として残されております。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な環境のなかで地域の皆様と関わりながら、その人らしい尊厳のある生活が送れるようにお手伝いします。」を理念として掲げております。さらにグループホームのパンフレットの表紙にも、これを明示してPRをすすめております。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホール等の見やすい場所に運営理念を掲示しており、さらに、採用時の研修や月2回の職員会議でこの理念を持ち出し、周知徹底をはかっていることが、管理者面談等で確認できます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域とのつきあいは、徐々に実施されております。昨年は「ヴィラ祭」(8月5日)「盆踊り」(8月10日)等の行事へ招待がなされており、今後は「老人会」や「バザー」等へも積極的に参加していく考えです。	○	敷地内の自動販売機や椅子を地元の方々に開放することやホーム内でのどんな行事に地元の方々をお呼びするか等は、今後の課題として残されております。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回はユニット毎に各施設長が中心となり「自己評価票」を作成しております。今後はこの評価票をベースとして、各ユニット毎に帳票整備等の実務組み立てを行っていく考えであり、来年度以降の成果が期待されます。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年1月23日に第1回推進会議を実施しております。「地域密着」を方針として各メンバーでいかに具体的な施策(敬老会への参加、バザーの開催、盆踊りの開催等)を実施していくかが今後の課題となります。なお、次回開催は、平成20年4月の予定です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市担当職員(地域包括センター)が出席しているほか、ケースバイケースで市担当課と打ち合わせを行っております。さらに、市役所にホームのパンフレットを置かせてもらうほか運営方法等で相談に乗ってもらっております。(管理者面談より。)		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「家族会」はまだ結成されておられません。ただし、「利用者アンケート」にみられるように、本人の健康状態や金銭管理等については、おおむね職員より家族に報告がなされているようです。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に家族と職員との話し合いの機会をつくっており、電話での打ち合わせとあわせて家族の意見を職員会議にとりあげて個別に対応していることが「議事録」等でも確認できます。	○	家族と職員とのコミュニケーションを一段と深めていくねらいもあり、「家族会」の設立が今後の課題として期待されます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「利用者アンケート」でも職員の異動についての不満等の指摘はなく、家族からみて職員は「生き生き働いている」と大半の方々は感じているようです。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のホーム内「学習会」を通じて職員研修を積極的に行っていることが、資料等より窺えます。さらに、外部の交流研修会も定期的の実施されており、スタッフ面接からも職員の「一途さ」が感じられます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市グループホーム連絡会は盛んに活動を進めております。もちまわり方式で「ふれあいコンサート」を実施したり、「合同外出」を行ったり、多彩な活動を行っていることが、管理者面談等より窺えます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	近隣の利用者が殆どで、入所前に家族・利用者は何度も足を運び、お茶を飲んだり、行事や日中活動に参加を繰り返しながら、徐々に馴染んでもらい、本格的に利用していけるように支援しております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々職員と共に、出来ないことをお手伝いしております。利用者主体の生活をしていけるように、自立に向けた支援を実践しております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや意向に添えるように、日々のかかわりの中で言葉や表情などを汲み取り、把握に努めております。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が自分らしく暮らし続けることを支えていく為の個別計画を作成しております。ただし、利用者アンケートには、家族へ介護計画の説明はしているが、話し合っていないとの指摘もありました。	○	本人・家族の思いや意見を聞くなどよく話し合っ、お互いの合意のもと、介護計画に活かす取り組みが望まれます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な介護計画の見直しや、利用者の状態変化や家族・本人の要望に応じて、期間が終了する前であっても検討見直しを行っております。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の状況に応じて、医療連携体制(協力医)を活かし、往診など医療処置を受けながら生活の継続が出来るよう支援しております。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医(各病院、クリニック)に受診やホームドクターの訪問診療・訪問看護ステーションに来てもらうケースもあります。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後は地元の医療機関・訪問看護ステーションと連携してやっていく方向で考えております。いずれ終末期や重度の利用者を支える必要性を感じており、家族・施設側との話し合いなどの検討や準備が行なわれております。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシー保護のマニュアルの活用をはじめ、訪問調査時も声かけなどさりげない言葉かけや対応に配慮されてきました。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩など利用者一人ひとりの思いを大切にして、柔軟に対応しております。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調査時は利用者と職員が同じ食卓を囲みながら、昼食を楽しまれました。ただし献立作りや調理に利用者はスタッフと一緒に取り組みは行なわれておらず、テーブルに並ぶまで利用者は当日のメニューが分らなかったようです。	○	職員は2週間先までメニューを把握していましたが、利用者にも、献立が分るような配慮がなされることが望まれます。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴のタイミングが合わないことや時間の制約があったりすることもあり、3日に1回入浴をする利用者が多いようです。利用者アンケートからは回数を増やして欲しいとの意見が聞かれています。	○	入浴を拒む人に対しても、言葉かけや対応の工夫すなわち一人一人に合わせた入浴支援を試みる必要があるかと思われまます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日達成できる簡単な「個人目標」(例・「おしぼりたたみ」)を毎月立て、日々実行して、月ごとに「評価」しております。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩を心かけている利用者が、1階・2階共に2人～3人程度おります。	○	気分転換や五感刺激の機会として、重度化した利用者でも、戸外へ出ることを積極的に支援していくことが望まれます
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出しそうな利用者を見かた時は、止めるのではなくさりげなく声をかけたり、一緒についていくなど、安全面に配慮して、日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成19年10月3日、平成20年2月20日に「自主訓練」を実施しております。また災害対策ははじまったばかりですが、今後地域の方々や消防署スタッフ等と打ち合わせのうえ、具体的な実施が期待されます。	○	「自己評価票」にも明記されておりますが、今後、「運営推進会議」等で地域の方々と協議し、消防署スタッフの指導のもとで「合同訓練」を実施していくことが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分不足が起こらないよう毎日チェック表に記録し、職員が情報を共有しております。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	「利用者アンケート」でも窺がえますが、清潔な雰囲気 の共用空間となっており、季節感のある掲示物や本人の作品等が展示されております。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はタンス、テレビ(部屋によってはお位牌。)等が置かれており、簡素で清潔感を感じる空間造りとなっております。		